

図書館ゆうびん YA向け

2022年 春号



相生市立図書館



ご入学、ご進級、おめでとうございます！ こんにちは図書館です。
「図書館ゆうびん YA向け」は相生市立図書館から、若い人たちに向けて図書館や本の情報を発信するお便りです。図書館を身近に感じてもらえたらうれしいです。

春は

新しい学生証を持って 図書館へ行こう！

貸出カードの しんき とうろく ・新規登録 ゆうこう きげん こうしん ・有効期限の更新 は学生証でできます。

「カードを作ったけれど、なくしてしまった」「私のカードの有効期限はどうなっているの？」という人も、さいはっこう再発行や更新のためにカウンターまで学生証をお持ちください。登録、本の貸出はもちろん無料です。

対 象：相生市にお住まいの方

相生市の学校に通っている中学生・高校生

場 所：相生市立図書館 1階カウンター

持 物：学生証、相生市立図書館の貸出カード（すでにお持ちの方）



カードがあればこんなこともできます！

・予約

借りたい本が貸出中の時は予約できます。図書館に来なくても、ホームページから24時間いつでも予約できます。

・リクエスト

本屋さんで見かけた面白そうな本！読みたいけれど図書館にはないみたい…。そんな時はリクエストを試みよう。購入が決まったら、ピカピカの本を1番に借りられますよ！



こんなカードです。



Interview with a teacher !

先生へのインタビュー記念すべき第一回目は、那波中学校で保健体育の教師をされている**松本先生**です。サッカー部の顧問をされています。（2022年3月現在）

Q1 どんな中学生・高校生でしたか？

A1 矢野川中学校に通っていた頃は、野球部でした。学校の外へ飛び出して田んぼに落ちたボールを裸足になって回収していました。進学先の相生高校ではサッカー部に入りましたが途中でやめてしまい、それを後悔して大学でもう一度、4年間サッカーに挑戦しました。先生になりたいと思ったのは小学生の頃。当時流行っていた学園ドラマや恩師の先生の影響です。



『椎名誠さんがお好きな松本先生』

Q2 当時の恋愛について教えてください。

A2 女の子に興味はあっても自分からは話せず、硬派を気取るふりをして男子とばかりつるんでいました。バレンタインの時期にそわそわしたことは今でもよく覚えています。結局女の子からはもらえずに、母親が用意してくれていたチョコレートを虚しく眺めていました。高校2年生で初めて彼女ができました。スマホがない時代なので、話したいときは自宅の固定電話で！彼女のお父さんが電話に出ると、とても緊張しました。手をつなぐこともないまま自然消滅のように別れてしまい、卒業後も引きずりました。

Q3 好きだった本やマンガはありますか？

A3 中高生の頃は雑誌に掲載されていた『タッチ』や『北斗の拳』が好きでした。アウトドアが好きになってからは、椎名誠さんの『怪しい探検隊』シリーズや沢木耕太郎さんの『深夜特急』をよく読みました。本から一人旅に憧れ、一人キャンプをするようになり、ひとりで過ごす時間の心地よさと大切さを実感しました。



数年前には宮西達也さんという絵本作家を知りました。

『ティラノサウルス』や『パパはウルトラマン』のシリーズも好きですが、印象深いのは『シニガミさん』という絵本。中学生、高校生にも読んでみてもらいたいです。

『私物を用意して頂きました。』

Q4 中学・高校生の時にやり残したことや、当時に戻れたらやりたいことはありますか？

A4 特にありません。戻りたいとも思っていません。その時々を精一杯やりきってきたし、今もすごく楽しいのでそう感じるのだと思います。ただ、もっといろんなジャンルの本を読んでいたら、今以上に豊かな人生になっていたかもしれませんね。



松本先生、貴重なお話をありがとうございました！

先生のおすすめの本はYAコーナーに展示しています。ぜひ借りてみてください。

入学、進級、クラス替え… 春は出会いの季節



出会いを描いた本



『わたしの全てのわたしたち』

サラ・クロッサン・著 金原瑞人 最果タヒ・訳／ハーパーコリンズ・ジャパン
／933-ク

グレースとティップは、腰から下が繋がった結合双生児。16歳にして初めて通う学校は、新鮮な驚きに満ちていた。クラスメイトにとっても彼女たちとの出会いは未知との遭遇。双子の学校生活の架け橋となったのは、ハンサムなジョンと派手なセンスのヤスミン。すぐに打ち解け親友となった4人は、授業をサボったり、お泊まりパーティーをしたり、時にはケンカをしたりと楽しい毎日を過ごす…。

友情、恋、憧れや嫉妬、初めての感情を美しく描く散文詩。



『杏奈は春待岬に』 梶尾真治・著／新潮社／F-カ

春の日、健志は父の田舎で年上の少女杏奈と出会い一目ぼれする。彼女は古い屋敷で老人と暮らしていた。数年後彼女を訪ねた健志は、老人から二人の秘密を聞かされる。杏奈と自分は兄妹で、未来から来た。その際事故にあい、杏奈だけが時空に取り残され、一年のうち春の数日しかこの世に存在できない。毎年数日分しか成長しない妹との年の差は広がり、自分の死後、妹がひとりになってしまうことが心配でならないというのだ。健志は残りの人生を杏奈に捧げ、兄に代わって彼女を守り生きていくと心に決める。この恋に幸せな未来はあるのだろうか。

『種をまく人』

ポール・フライシュマン・著 片岡しのぶ・訳／あすなろ書房／93-フ

多くの移民が暮らすオハイオ州のスラム街に、ゴミだらけの空き地がありました。そこにベトナム人の少女キムがマメの種をまきます。キムの行動をきっかけに年齢も人種も違う人たちが出会い、つながりが生まれ、空き地と人の心は変化していきます。

人間同士の関わりや社会のあり方を丁寧に描く物語。





運命を変える出会い、ここにあります！



『JK、インドで常識ぶっ壊される』熊谷はるか・著／河出書房新社／914-ク

飛行機のドアを開けるとスパイシーな熱気。親の転勤でインドへやって来たはるか。あこがれの JK 生活がインドでスタートするなんて考えてもみなかった。カレー、数学、13 億を超える人口…。チープなイメージで挑んだ新生活はおどろきの連続だった。4 人乗りの原付バイク。実はレアキャラなターバンおじさん。激辛より激甘の方がつらい。ヒन्दウー教の国で意外に需要のある牛肉。そして日本では考えられないレベルの格差社会。スラム街で出会った子どもたちと過ごすうち、はるかはたくましく成長する。「日本バージョンの常識」をぶっ壊す、インドの今がつまったノンフィクション。

『キツネ』 マーガレット・ワイルド・文 ロン・ブルックス・絵
寺岡襄・訳／BL 出版／P-7

山火事でイヌは片目を、カササギはつばさを失った。ふたりは相手の目になり、つばさになることを約束する。そこへキツネがやって来た。カササギはキツネを不気味に思い、仲間はずれにしようとするが、イヌはキツネを歓迎する。

ある日キツネはカササギを誘惑する。「自分はイヌより速く走れる」「イヌを捨てて一緒に行こう」と。一度は断ったカササギだが、イヌの背に乗りながら、キツネのことを考えていた。飛ぶように走るキツネに乗れば、もう一度飛べる気がしたのだ。その夜、ふたたびキツネに誘われたカササギは…。

イヌとカササギの暮らしはキツネとの出会いで静かに変わっていく。



背表紙のラベルが新しくなりました！

むらさき色の YA シール → 黄色のスマイルシール



すてき！



かわいい！



よろしく
おねがいします。

わかりやすい！

図書館大好き！

Who's next?

今号からスタートした、先生へのインタビュー。楽しんでいただけたでしょうか。インタビューは続きます。

次はどんな先生が
登場するか
お楽しみに！

